

エコアクション21 環境経営レポート



発行日：2020年09月07日
活動期間：2019年度（2019年4月～2020年3月）

ミヤマ工業株式会社

〒418-0004

静岡県富士宮市三園平1355番地

TEL：0544-27-4111（代）

FAX：0544-27-3267

目 次

I .組織の概要	 P-1
II . 環境経営方針	 P-2
III . 実施体制	 P-3
IV . 環境経営目標	 P-4
V . 環境経営計画に基づき実施した取組み内容	 P-5
VI . 環境経営目標の実績・取組結果とその評価 及び次年度への取組み計画	 P-6～10
VII . 当社の取組み	 P-11～12
VIII . 環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果 並びに違反、訴訟などの有無	 P-13
IX . 代表者による全体の評価と見直し・指示	 P-14

I 組織の概要

(1) 事業者名及び代表社名

ミヤマ工業株式会社
代表取締役社長 高崎尚紀

(2) 所在地

・本社工場

〒418—0004 静岡県富士宮市三園平1355番地
TEL: 0544—27—4111 (代)

・物流センター

〒418—0004 静岡県富士宮市三園平758—1番地
TEL: 0544—21—1011

・第3、第4工場 (2010年度よりサイトを拡大し集計)

〒418—0002 静岡県富士宮市中原町48番地
TEL: 0544—26—8199

(3) 環境関係の責任者及び担当者連絡先

環境管理最高責任者: 代表取締役社長 高崎 尚紀
環境管理責任者(正): 専務取締役 坪井 正信
環境管理責任者(副): 常務取締役 片岡 駿介
担 当 者: エコアクション21推進事務局 渡邊 時男
連 絡 先: TEL 0544—23—8216 FAX 0544—27—3267

(4) 事業内容及び対象範囲

事業内容及び認証登録範囲

- ・輸送用機器及び家電部品用、金属部品の加工製造販売
- ・全社全活動が対象範囲

(5) 事業規模

活動規模	単位	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
生産高	百万円	3,786	3,965	4,117	3,146
売上高	百万円	3,945	4,142	4,281	3,392
従業員	人	177	173	168	165
床面積	m ²	8,960	8,960	8,960	8,960
生産量	t	*	*	5027.96	3956.01

(6) 事業年度

4月1日～翌年3月31日

(7) 環境経営レポートの運用期間及び発行日

環境経営レポートの運用期間: 2019年度(2019年4月1日～2020年3月31日)

環境経営レポートの発行日: 2020年9月7日

Ⅱ 環境経営方針

環境経営方針

基本理念

「私たちは、小さな活動も未来の大きな成果へつなげることを確信し、環境保全に取り組む」

方針

当社の基本理念に基づき、金属部品加工・組付けを主とする事業活動を通じて環境管理活動に取り組み、社会、地球環境との共生・調和をめざします。

1. 全ての事業活動を通じて、環境に与えている影響を捉え、技術的・経済的に可能な範囲で環境目標を定め、全社員が参加して環境活動の継続的改善を推進します。
又、必要に応じて見直します。
2. 環境関連の法規、条例を遵守し、環境汚染の予防に取り組みます。
又、エコアクション21の要求事項に準拠した規定類を制定し、運用します。

3. 具体的取り組み内容

- ①温室効果ガス排出量を削減する（購入電力、化石燃料の消費量を削減する）
- ②廃棄物の排出量を削減する（一般廃棄物、産業廃棄物の排出量を削減する）
- ③水資源を削減する（上水道、地下水使用量を削減する）
- ④化学物質使用量の削減（PRTR制度対象部質）
- ⑤グリーン製品の調達の推進する（材料含め環境に良いものを手配、購入する）
- ⑥地域社会との共生をはかる（クリーン作戦等を実施する）
- ⑦工程不良の削減をはかる。

☆ 緊急時、油・薬品等、環境に影響を及ぼさないよう予防処置をとります。

4. 環境教育・環境カード・ポスターなどで、全社員に環境方針の理解と意識の向上を図ります。
又、環境方針は、顧客、供給者及び一般社会へ必要に応じて、公開します。

認証制定日 2003年 10月 01日

改訂日 2019年 04月 01日

ミヤマ工業株式会社
代表取締役 社長

高崎 尚紀

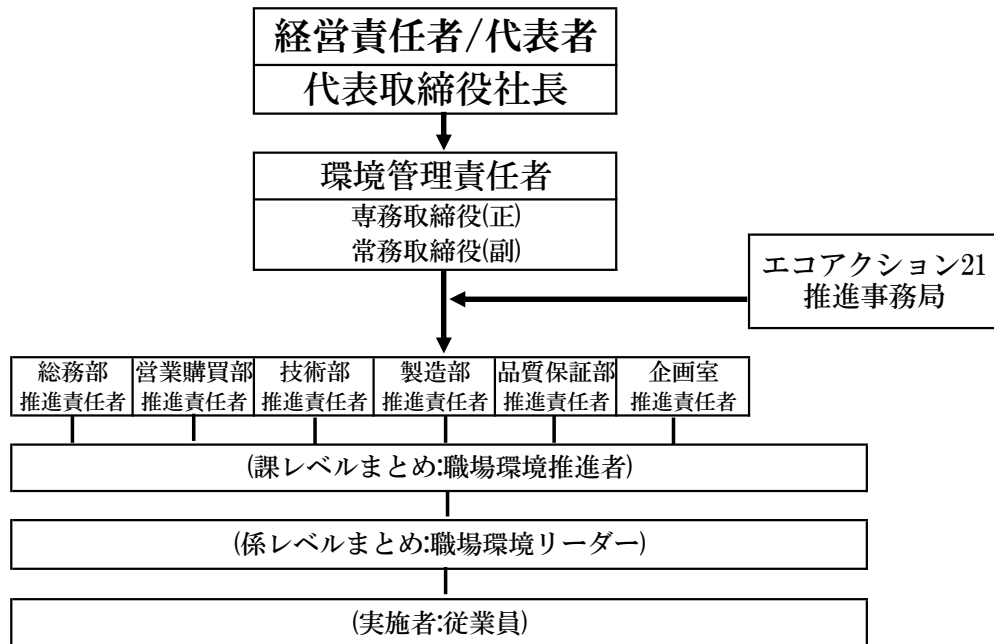
Ⅲ 実施体制

作成日：2018年4月1日

作成者：坪井正信/環境管理責任者

対象範囲：全社/本社、物流センター、第3・第4工場

①環境管理組織



②任務・責任・権限

代表者

- ・環境経営システムの運営に関する全ての責任と権限。
- ・環境管理責任者の任命。
- ・経営資源の割り当てと具体的管理運営。
- ・環境経営方針の作成と全社員の周知。
- ・全体の評価と見直し・指示。

環境管理責任者

- ・各部の推進責任者及び推進事務局と内部監査員を任命。
- ・エコアクション21年間活動計画の作成と実施結果の報告。
- ・実施結果の有効性確認と必要に応じた是正処置を指示。
- ・環境管理組織の設置。

環境管理推進者

- ・目標達成のための維持管理及び改善について責任と権限を持ち、部内の周知徹底を図る。
- ・エコアクション21年間活動計画の作成と実施結果の報告。
- ・環境管理責任者及び職場環境推進者と連携し環境経営システムの見直しと活性化を図る。

職場環境推進者

- ・目標達成のための維持管理及び改善について責任と権限を持ち、課内の周知徹底を図る。
- ・エコアクション21年間活動計画の作成と実施結果の報告。
- ・環境管理責任者及び職場環境リーダーと連携し環境経営システムの見直しと活性化を図る。

職場環境リーダー

- ・目標達成のための維持管理及び改善について責任と権限を持ち、係内の周知徹底を図る。
- ・エコアクション21年間活動計画の作成と実施結果の報告。
- ・職場環境推進者と連携し環境活動の活性化を図る。

従業員

- ・目標達成のためエコアクション年度計画を具体的に実施。

エコアクション21推進事務局

- ・環境に関する教育及び年間活動計画の立案。
- ・環境に関する情報の提供。
- ・内部監査員の育成及び内部監査の計画・実施。
- ・環境経営システムに関する文書・記録の管理と環境経営会議の開催計画の作成と実施。
- ・環境経営レポート作成及びHPへのアップ。

Ⅳ 環境経営目標

1.2019年度の環境経営目標

項 目		単 位	基準年	基準値	運用期間:2019年度	
					目標削減率	目標値
二酸化炭素排出量	合 計	kg-CO2/生産高(百万円)	2015年度	422.14	-2.0%	413.69
	購入電力	kg-CO2/生産高(百万円)	2015年度	362.91	-2.0%	355.65
	化石燃料	kg-CO2/生産高(百万円)	2015年度	36.40	-2.0%	35.67
	炭酸ガス	kg-CO2/生産高(百万円)	2015年度	22.83	-2.0%	22.37
廃棄物排出量	一般廃棄物	t	2017年度	34.40	-1.0%	34.10
	産業廃棄物	t	2017年度	2197.9	-1.0%	2175.9
水資源投入量	地下水	m3/生産高(百万円)	2015年度	8.810	-4.0%	8.460
	上水道	m3/生産高(百万円)	2015年度	0.117	-4.0%	0.112
グリーン製品の調達推進		%	年	*	*	90%以上
工程内不良の削減	納入クレーム	件	年	*	*	9以下
	社内クレーム	件	年	*	*	5以下
	受入クレーム	件	年	*	*	19以下
	不良削減金額	% (千円)	年	*	*	25%/前年
クリーン作戦/地域の清掃活動の実施		回	年	*	*	2回/年実施
化学物質使用量の削減		適正な管理をする				

(備 考)

- 1.「購入電力の二酸化炭素排出係数は、東京電力ホールディングス排出係数(平成25年12月28日発行)0.525kg-CO2/kwhを使用。
- 2.基準とする値は2015年度及び2017年度の実績値とする。
- 3.一般廃棄物/可燃ゴミは、2017年度よりの新たな分類(分類増)から2019年度までは新たな目標設定のための実績値取りの年度とする。

2.中期環境経営目標

2020年度環境経営目標は、2018年度実績を基準値に対し、下記の通りとしました。

尚、環境目標の基準年を2018年度とした理由は、現在の業務内容に合った目標立てへの見直しを行い基準年、基準値といたしました。

項 目		単 位	基準年	基準値	目標年度		
					2020年度	2021年度	2022年度
二酸化炭素排出量	合 計	kg-CO2/生産高(百万円)	2018年度	358.4	-8.0%	-9.0%	-10.0%
	購入電力	kg-CO2/生産高(百万円)	2018年度	309.55	-8.0%	-9.0%	-10.0%
	化石燃料	kg-CO2/生産高(百万円)	2018年度	25.88	-8.0%	-9.0%	-10.0%
	炭酸ガス	kg-CO2/生産高(百万円)	2018年度	22.97	-8.0%	-9.0%	-10.0%
廃棄物排出量	一般廃棄物	t	2018年度	42.817	-8.0%	-9.0%	-10.0%
	産業廃棄物	t	2018年度	2403.2	-8.0%	-9.0%	-10.0%
水資源投入量	地下水	m3/生産高(百万円)	2018年度	3.342	-0.5%	-1.0%	-1.5%
	上水道	m3/生産高(百万円)	2018年度	0.110	-0.5%	-1.0%	-1.5%
グリーン製品の調達推進		%	年	*	100%以上	100%以上	100%以上
クレーム件数の削減	納入クレーム	件	年	*	9以下	7以下	7以下
	社内クレーム	件	年	*	3以下	2以下	2以下
	受入クレーム	件	年	*	19以下	16以下	16以下
事故現品廃却金額の削減		前年25%減	年	*	25%減/前年	25%減/前年	25%減/前年
クリーン作戦/地域の清掃活動の実施		回	年	*	2回/年実施		
化学物質使用量の削減		適正な管理をする					

(備 考)

- 1.「購入電力の二酸化炭素排出係数は、2020.02.17環境省・経済産業省公表/東京電力エナジーパートナー(株)の0.468kg-CO2/kwhを2020年度の活動より使用。
- 2.一般廃棄物/可燃ゴミは2018年度より新たな分類(処理分類増)にて活動開始、2020年度より新たな目標設定をいたしました。
- 3.「化学物質使用量の削減」は数値目標の設定が困難なことから、定性的な目標としました。

V 環境経営計画に基づき実施した取組内容

・2019年度活動計画/詳細は「年度の具体的行動計画書」による

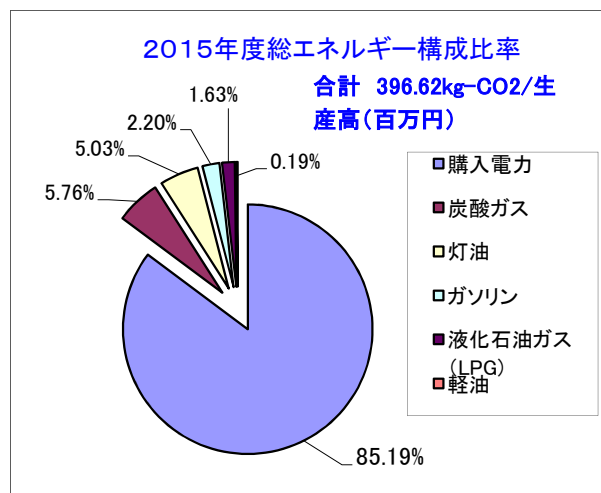
環境活動項目			責任者	スケジュール	
				上期	下期
基本行動	1.工場内の節電	①昼休み、休憩時間及び不在時の消灯	各部の 部署長		
		②長時間使用しない設備、事務機器の電源切り			
		③パソコン及びプリンターの退社時の電源切り			
		④冷暖房機の適正温度管理			
		⑤扇風機での適正温度管理(材料倉庫)			
		⑥エアコンのフィルター清掃			
		⑦人センサー取付けによる節電			
	2.工場内の節水	・水漏れ保全、定期的な蛇口の漏れ点検			
	3.LPガス使用量の削減	①フォークリフト走行時の急発進、急加速 空ふかしをしない			
		②フォークリフトの定期点検			
	4.一般ゴミの削減	①指定回収ゴミの分別実施			
		②機械の油漏れ点検実施			
		③ペーパーレス化へ、電子メール、ネット化 IT化への移行			
	5.産業廃棄物削減	・設計時、スクラップの少ないレイアウト (金型等)			
	6.エア-漏れの点検	・エア-漏れの定期点検			
	7.法令の遵守	・法令の更新及び遵守状況の確認	総務部 安竹		
二酸化炭素 排出量の削減	1.明るい作業環境 の推進	・社内照明見直し/LED化・工場内	総務部 向井		
	2.省エネタイプへの 更新	①社内証明の見直し/LED化・事務所内	技術部 片岡		
		②エアーコンプレッサーのインバーター式 への更新検討			
	3.LPガス使用量の 削減	・定期使用量の確認による異常使用 の再発防止/フォークリフト使用	製造部 小川		
廃棄物の削減	1.一般廃棄物	・ゴミの減量	総務部 向井		
	2.産業廃棄物	①工程不良の削減	製造部 小川		
		②廃棄物の分別			
水資源投入量 削減	・水漏れ保全	・定期的な使用量チェック(毎月)	総務部 向井		
地域社会との共存	・クリーン作戦	・工場周辺の清掃(2回/年)	総務部 坪井	○(4月)	○(11月)
環境パトロール	・作業環境の向上	・安全衛生委員会メンバーによる定期チェック (毎月)	総務部 向井		
外部審査 及び教育・訓練	①エコアクション21審査認証(1回/年)		総務部 坪井		○(10月)
	②環境経営レポートの作成(毎年)		企画室 渡辺		
	③内部監査の実施(2回/年)		企画室 渡辺	(9月)○	(3月)○
	④おこりうる緊急時の対応処置/訓練(油流出・防火 各1回/年)		購買課 防火管理者		
	⑤教育/周知活動(2回/年)		総務部 向井	○(4月)	○(11月)
	⑥エコアクション21の定期推進会議の開催(毎月)		企画室 坪井室長		

VI 環境経営目標の実績・取組結果とその評価及び次年度への取組み計画

1. 2019年度環境経営目標の取組み内容と取組み結果の評価【環境目標・実績と評価】

(1) 温室効果ガス排出量

2019年度温室効果ガス排出量の目標は、近年の状況より2015年度実績を基準にCO2の排出量**2.0%減**とした。

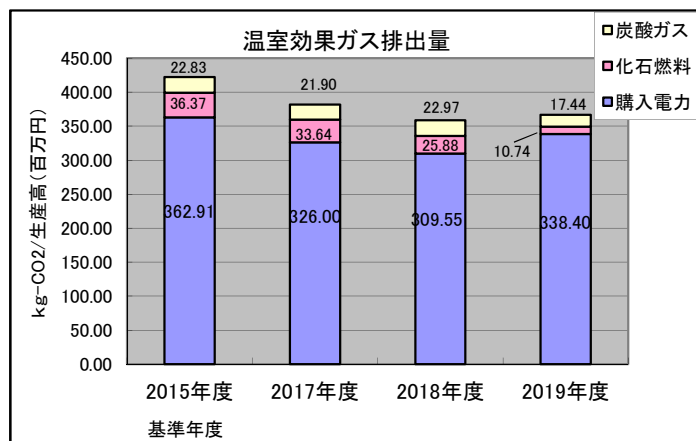


項目	2015年度
購入電力	85.19%
炭酸ガス	5.76%
灯油	5.03%
ガソリン	2.20%
液化石油ガス(LPG)	1.63%
軽油	0.19%
計	100%

(評価と課題及び今後の取組み)

2015年の中間審査アドバイスより、近年客先及び部品動向の大幅な変化のあった2015年度及び2017年度に目標基準年へと移行し、各資源の使用量の削減計画を立て活動しました。ただし、近年の製品動向等も刻々と変化しており、随時経営動向に注意が必要と考え、2020年度よりの目標を2018年度実績基準として活動を予定しています。

*購入力のCO2排出量は、東京電力㈱の電気事業者別実排出係数(0.525kg-CO2/kwh)(平成25年12月28日発行)を使用。



目標 2015年度に対し**-2.0%**

結果 削減率 **-8.36%**
達成率 **109.12%**

(評価と課題及び次年度への取組み)

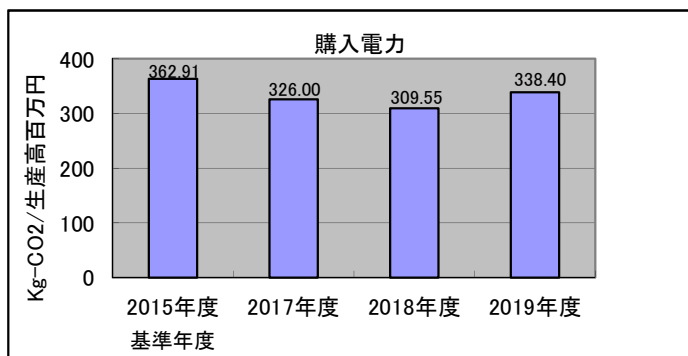
2019年度の温室効果ガス排出量は目標達成。2015年度からは温室効果ガス排出量減となりました、今後は近年の製品動向に合った削減活動を計画しています。尚、排出係数は0.525kg-CO2/kwh(平成25年12月28日発行)を使用いたしました。2020年度は排出係数0.468kg-co2/kwh(2020年1月7日環境省発行を使用予定)

(例) 2015年度基準に対する削減率 = (2019年度(実績) - 2015年度(基準)) ÷ 2015年度(基準) × 100

(例) 2015年度基準に対する達成率 = (2015年度(基準) ÷ 2019年度(実績)) × 100

	2015年度(基準)	2019年度(目標-2.0%)	2019年度(実績)	削減率	達成率	結果
単位	Kg-CO2/百万円			%		
購入電力	362.91	355.65	338.40	-6.75	107.24	達成
化石燃料	36.37	35.67	29.79	-18.09	122.09	達成
炭酸ガス	22.83	22.37	18.66	-18.27	122.35	達成
計	422.14	413.69	386.85	-8.36	109.12	達成
総CO2量(kg-CO2)	1477719	1448165	1216855	環境への負荷の自己チェック表/CO2データ表の合計エネルギー量		
購入電力(kwh)	2419952	2371553	2027491	環境への負荷の自己チェック表/購入電力量		
燃料(L)	42763	41908	34755	環境への負荷の自己チェック表/使用量		

①購入電力CO2排出量



目標 2015年度に対し **-2.0%**

結果 削減率 **-6.75%**
達成率 **107.24%**

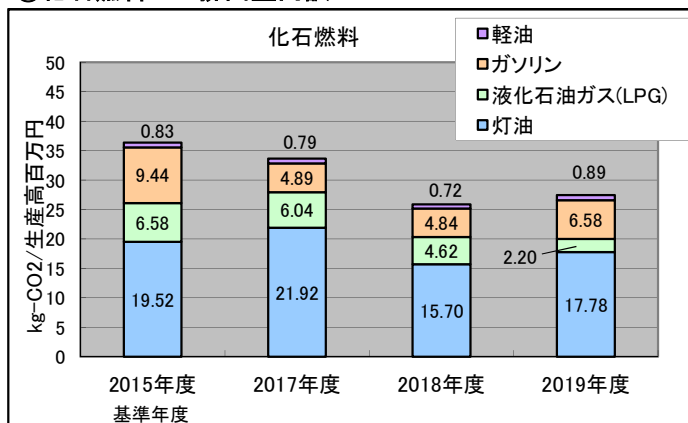
(評価と課題及び次年度への取組み)
購入電力においては、2016年度よりの工場内の照明のLED化等が完了しました。
現在は事務所等の間接部門のLED化を継続推進中です。

改善・削減項目	2019年度省エネ活動の具体的な取組み	活動結果
購入電力の削減	昼休み、休憩時間及び不在時の消灯活動。	実施
	長時間使用しない設備、事務機器の電源切り活動。	実施
	パソコン及びプリンターの帰社時の電源切り活動。	実施
	冷暖房機の適正温度管理による節電活動。	実施
	扇風機で空気を拡散し、温度調整する。	実施
	エアコンのフィルター掃除する。	実施
	人センサーの取付による、必要なときのみの点灯推進活動。	実施

	2015年度(基準)	2019年度(目標-2.0%)	2019年度(実績)	削減率	達成率	結果
単位	Kg-CO2/生産高(百万円)			%		
購入電力	362.91	355.65	338.40	-6.75	107.24	達成

*購入電力のCO2排出量は、東京電力㈱の電気事業者別実排出係数(0.525kg-CO2/kwh)を使用。

②化石燃料CO2排出量内訳



目標 2015年度に対し **-2.0%**

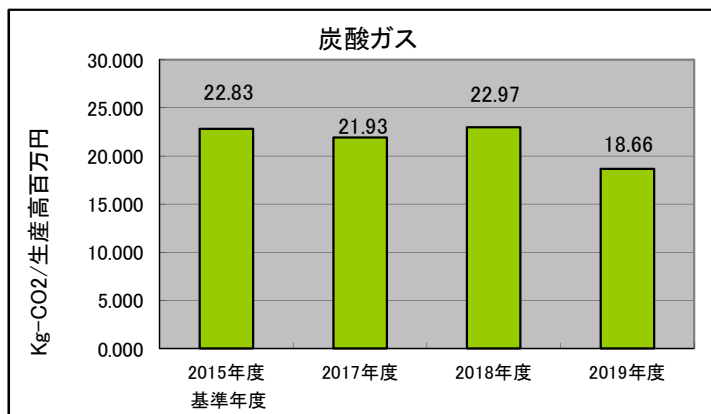
結果 削減率 **-18.06%**
達成率 **122.05%**

(評価と課題及び次年度への取組み)
化石燃料の灯油・ガソリン・LPG・軽油はいずれの排出量も削減率の目標を達成いたしました。
今後も活動を継続いたします。
また、2020年度は近況にあった目標を設定し活動予定です。

改善・削減項目	2019年度省エネ活動の具体的な取組み	活動結果
LPGガス	①フォークリフト走行時、急発進、急加速、空ふかしはしない。	実施
	②フォークリフトの月次点検の実施。	実施

	2015年度(基準)	2019年度(目標-2.0%)	2019年度(実績)	削減率	達成率	結果
単位	Kg-CO2/生産高(百万円)			%		
灯油	19.52	19.13	17.78	-8.91	109.79	達成
液化石油ガス(LPG)	6.58	6.45	4.55	-30.85	144.62	達成
ガソリン	9.44	9.25	6.58	-30.30	143.47	達成
軽油	0.83	0.81	0.89	+7.23	93.27	未達成
計	36.37	35.64	29.80	-18.06	122.05	達成

③炭酸ガスCO2排出量



目標 2015年度に対し **-2.0%**

結果 削減率 **-18.27%**
達成率 **124.96%**

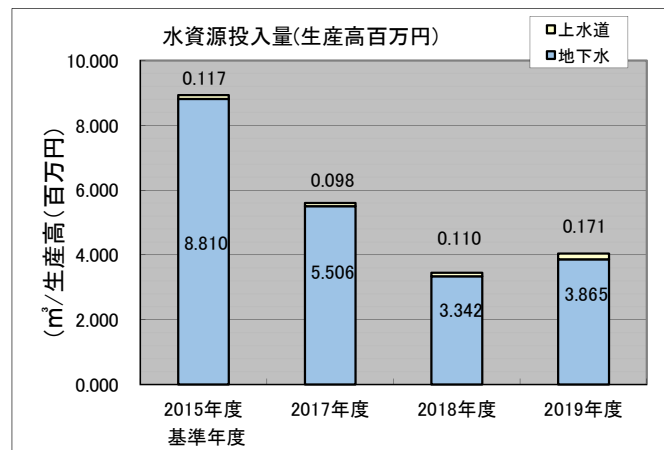
(評価と課題及び次年度への取組み)
炭酸ガスにおいては、2015年実績2.0%削減を目標に活動、結果18.27%の削減ができました。
また、2020年度は近年の状況にあった目標を設定し活動予定です。

単位	2015年度(基準)	2019年度(目標-2.0%)	2019年度(実績)	削減率	達成率	結果
	Kg-CO2/百万円			%		
炭酸ガス	22.83	22.37	18.66	-18.27	124.96	達成

(2)水資源投入量

2019年度の水資源投入量の目標は2015年度実績を基準に**4.0%減**とした。

改善・削減項目	2018年度省エネ活動の具体的な取り組み	活動結果
上水道	水漏れ防止 使用量の定期チェックによる異常使用量の再発防止活動。	実施
地下水	節水 水漏れ保全、定期蛇口のモレ点検活動	実施



目標 2015年度に対し **-4.0%**

結果 削減率 **-54.79%**
達成率 **221.18%**

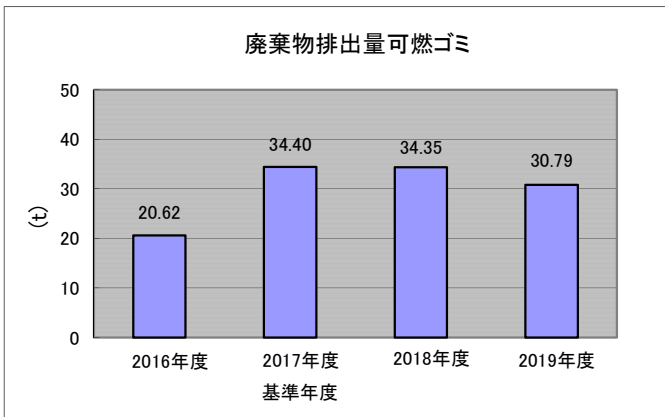
(評価と課題及び次年度への取組み)
水資源投入量は、配管よりの漏れを2017年度に工事を実施、大幅な削減となり2018年度もそれに準じ削減目標を立て活動を行い達成いたしました。
2019年度は全体としての目標を達成いたしました。
2020年度は近年の状況にあった新たな削減目標を立てて活動を予定しています。(使用量全体評価検討含む)

単位	2015年度(基準)	2019年度(目標-4%)	2019年度(実績)	削減率	達成率	結果
	m³/生産高百万円			%		
地下水	8.810	8.460	3.865	-56.13	227.94	達成
上水道	0.117	0.112	0.171	+46.15	68.42	未達成
計	8.927	8.570	4.036	-54.79	221.18	達成
総量(m3)	31250	30000	12697			

(3) 廃棄物排出量：一般可燃ゴミ

2019年度の廃棄物排出量：一般可燃ゴミの目標は、2017年度実績を基準に**1.0%減**とした。

改善・削減項目	2019年度省エネ活動の具体的な取り組み	活動結果
ゴミの減量化	①指定回収ゴミの分別実施/メーカーへの返却継続。 ・ジュース缶、紙コップ類は指定の容器へ、不要なチラシ、パンフレット類は受け取らない、捨てない。 ・オフィス古紙等はリサイクル資材へ。	実施
	②機械の油モレ対策を実施(ふき取り(紙、布)ゴミ削減活動及び環境維持活動)	実施
	③ペーパーレス化へ、電子メールの奨励、ネット化、IT化へ移行の促進。	実施



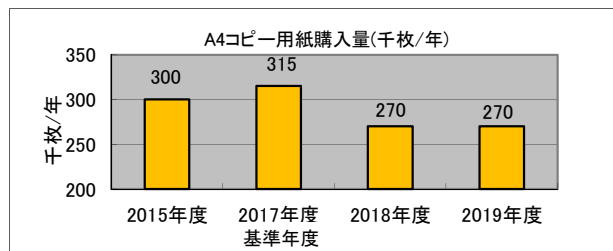
目標 2017年度に対し **-1.0%**
 結果 削減率 **-10.49%**
 達成率 **111.72%**

(評価と課題及び次年度への取組み)
 廃棄物「可燃ゴミ」の排出量の削減率は-10.49%と目標達成でしたが、2017年に新たな品目を入れ活動に入りました。2018年度・2019年度も可燃ゴミだけでなく一般ゴミの廃棄物「ダンボール、白上質紙、新聞紙等」を含め、一般廃棄物全体として搬出量のデータ取りを実施、目標を達成。2020年度は現状の推移を踏まえた活動目標を立て活動いたします。

	2017年度(基準)	2019年度(目標-1.0%)	2019年度(実績)	削減率	達成率	結果
単位	t			%		
廃棄物排出量可燃ゴミ	34.40	34.10	30.79	-10.49	111.72	達成

【A4コピー用紙購入量の削減】

(評価と課題及び次年度への取組み)
 A4コピー用紙購入量は2017年度(基準)、14.3%減でした。引き続き、電子メールの活用、両面、縮小コピー化の奨励等の活動を継続いたします。



	2017年度(基準)	2019年度(実績)	削減率
単位	千枚/年		%
A4コピー用紙購入量	315	270	14.3

(評価と課題及び次年度への取組み)
 産業廃棄物排出量は、近年の受注環境から2017年度を基準年とし活動、2019年度は14.9%の削減がされました。また、排出量の99.83%はリサイクルへの移行ができました。今後も近年の受注環境を考慮した目標を立て、リサイクルへの移行も視野に入れた活動をいたします。

目標 2017年度に対し **-1.0%**
 結果 削減率 **-14.90%**
 達成率 **117.50%**

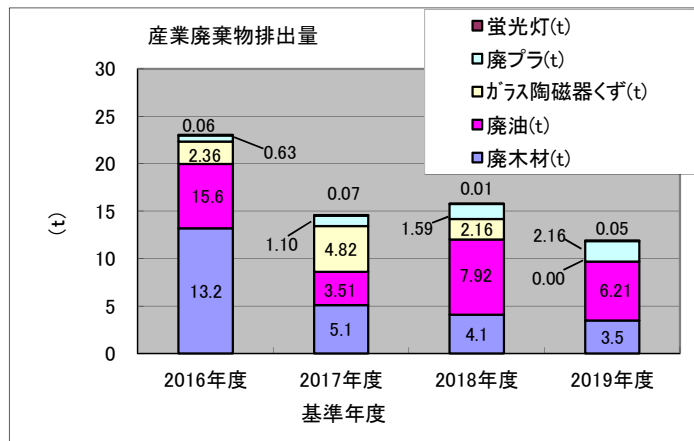
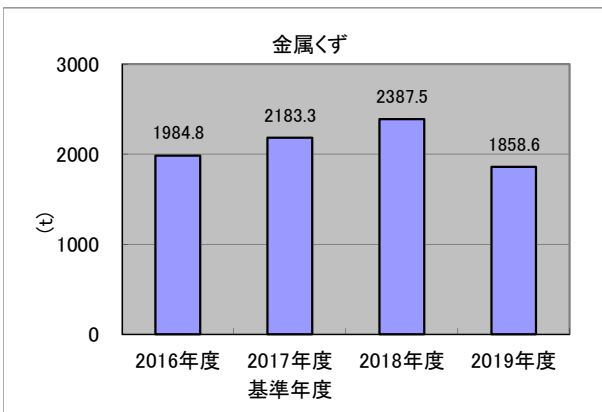
(4) 産業廃棄物排出量

年	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
金属くず(t)	1984.80	2183.30	2387.45	1858.60
廃木材(t)	13.20	5.10	4.09	3.48
廃油(t)	6.77	3.51	7.92	6.21
ガラス陶磁器くず(t)	2.36	4.82	2.16	0.00
廃プラ(t)	0.63	1.10	1.59	2.16
蛍光灯(t)	0.07	0.05	0.01	0.05
*	*	*	*	*
合計	2007.8	2197.9	2403.2	1870.5
目標値	*	*	2186.9	2175.9
(年1.0%削減)	*	基準年	+9.34	-14.9

	2017年度(基準)	2019年度(目標-1.0%)	2019年度(実績)	削減率	達成率	結果
単位	t			%		
産業廃棄物排出量	2197.9	2175.9	1870.5	-14.90	117.50	達成

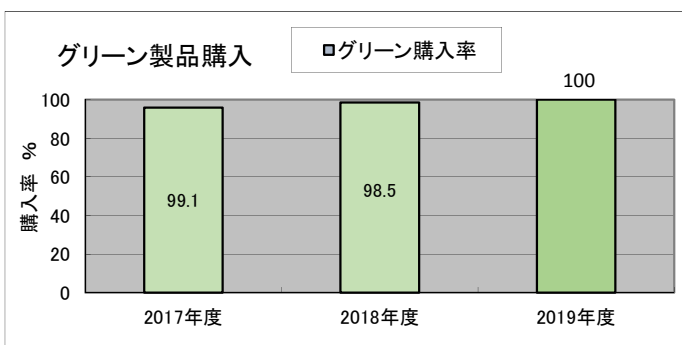
・2019年度排出量内、99.83%は再資源化いたしました。

改善・削減項目	2019年度省エネ活動の具体的な取り組み	活動結果
金属くず	工程内の不良の削減活動/廃却金額の実施	実施
他の削減	廃油、廃プラ、廃木材、蛍光灯、ガラス、陶磁器屑の削減。	実施



(5) グリーン製品購入の推進

2019年度のグリーン製品購入の目標は、**購入率:90%以上**。



目標 クリーン製品購入率90%以上

結果 年間:100%

(評価と課題及び次年度への取組み)
2019年度はグリーン製品購入の90%以上の目標を立て結果100%と目標を達成いたしました。
今後も継続して活動を実施いたします。

	2018年度	2019年度	2019年度(実績)	達成率	結果
単位	品 目			%	
グリーン製品購入率	98.5%	90%以上	100%	*	達成

(6) 工程不良削減結果

2019年度の目標に対し、納入・社内・受入不良ともに未達、また不良削減金額についても未達でした。

	2018年度			2019年度			結果
	目 標	実 績	達成率	目 標	実 績	達成率	
納入不良計画(件)	12	25	48.0%	9	17	52.9%	未達成
社内不良計画(件)	6	24	28.6%	5	8	62.5%	未達成
受入不良計画(件)	22	42	52.4%	19	31	59.3%	未達成
不良削減金額 (千円)	8650 (200万円減/前年)	9448	91.6%	7003 (25%減/前年)	8157	84.0%	未達成

(評価と課題及び次年度への取組み)
各不良発生件数(納入不良・社内不良及び受入不良)ともに目標、未達でした。
原因としては「人的要因不良」、人によるミスが目立ちました、これらの対応策として活動しましたが、効果は大きくみられませんでした。
よって、2020年度は作業の基本及びルールの遵守等の定着化のための「作業教育」を実施いたします。
また、不良金額の削減活動(工程内廃却金額)も引き続き諸活動と平行して実施いたします。

(7) 化学物質使用量の削減

(活動内容)

- ・SDSによる化学物質の確認、化学物質の法令類への該当の有無調査等「適正な管理」により実施いたしました。
- ・また、事故時の対応に関する教育の実施いたしました。

(活動結果)

- ・PRTR制度に定める有害物質の使用はありませんでした。
 - ・また、油等の流出時の緊急訓練を実施いたしました。
- (上記訓練状況は別紙P-12参照願います)

(評価と課題及び次年度への取組み)
2019年度は「適正な管理」への活動が実施されました、2020年度も継続して活動を実施いたします。

VII 当社の取組み

(1) クリーン作戦（地域社会との共生）

【工場周辺の清掃活動】 2回/年

地域奉仕活動として、工場周辺及び道路のゴミや雑草を除去した。

日付	2017/04/13	2017/11/17	2018/04/13	2018/11/16	2019/04/11	2019/11/15
清掃重量(kg)	218.5	143.0	95.5	173.0	73.0	243.5
参加人員(人)	45	53	43	53	51	54

第1回目 2019年4月11日(木)

	本 社	第3・4工場	物流センター	他	合 計
草・ゴミ(kg)	65.0	5.0	1.0	2.0	73.0
参加人員(人)	42	3	4	2	51

第2回目 2019年11月15日(金)

	本 社	第3・4工場	物流センター	他	合 計
草・ゴミ(kg)	224.0	4.0	1.0	14.5	243.5
参加人員(人)	43	4	5	2	54

4月11日の様子
11月15日の様子



(清掃前)



(清掃後)



(2) 教育訓練の実施

1.【防火訓練の実施】 社内にて防火訓練を実施しました。

(訓練の様子)

・実施日・時 2019.09.20(金) 13:00～13:30	
・場所(第二工場)	
・講師/防火管理者	
部署名	参加人員
製造部	5部署 合計17名
総務部	
営業購買部	
技術部	
品質保証部	



・実施結果

参加者全員で屋外消火栓及び消火器の取り扱い方法を習得いたしました。

2.【油汚染防止と対応/油流出時の緊急訓練】 油流出時の対応について教育・訓練しました。

実施日時及び実施場所:2019.10.24(木)/13:00~13:30

参加者:製造部、技術部、品質保証部、総務部、営業購買部/.....合計24名

講師:営業購買部 購買課/2名

(訓練の様子)



・実施結果

- ①受講者は手順通りに対応することができました。
- ②質問等は特にありませんでした。
- ③その他として、吸引用ホースの更新を行うこととしました。

VIII 環境関連法案などの遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟などの有無

(1)法規の遵守状況の確認及び評価

当社に適用される環境関連法規等の更新状況及び遵守状況を確認した結果、違反はありませんでした。

法的義務を受ける主な関連法規は次の通り

評価日:2020.04.15

評価者:総務部 向井貴俊

法規・条例・規制	該当する遵守内容	遵守状況
労働安全衛生法	作業環境測定	○
	産業医の選任・届出	○
	衛生管理者の選任・届出	○
	安全管理者の選出・届出	○
騒音規制法	規制基準の遵守	○
	特定施設の設置・変更届	○
	公害防止管理者の選任・届出	○
振動規制法	規制基準の遵守	○
	特定施設の設置・変更届	○
	公害防止管理者の選任・届出	○
廃棄物の処理 及び清掃に関する法 律	廃棄物管理責任者の選任	○
	適切な許可業者(運搬・処理)との契約	○
	マニフェストの管理	○
	マニフェストの交付等状況報告	○
	処理委託先の実地確認	○
消 防 法	防火管理者の選任・届出	○
電気事業法	主任技術者の選任・届出	○
フロン排出抑制法	対象エアコンの簡易定期点検	○
グリーン購入法	環境物品等の調達推進及び需要の転換	○

(2)違反、訴訟及び苦情など

当社に対し関係機関からの指摘及び利害関係者からの違反、訴訟、苦情はありませんでした。

IX 代表者による全体の評価と見直し・指示

代表者による全体の評価と見直し・指示

2019年度も、会議体、指標のモニター、データの集約等は、継続的に実施されている。
一般物の廃棄量(数値)は、増加しているが、対象の定義変更によるものである。
これ以外(の数値)においては、改善が見られ、引き続き、減減ではあるが、活動は、後退して
いないと考える。

また、EA21の2017年版への移行完了に合わせ、また、活動アイテムの発掘にも注力したい。
本年2月からの新型コロナウイルスへの対応も事業活動へ影響しているが、最小限に抑えて行きたい。

EA21 全体の取組状況の評価及び見直し・指示

作成日: 2020年4月15日

評価者: 代表者 代表取締役社長 高崎 尚紀

2019年度	達成/○ 未達成/×			達成/○ 未達成/×			達成/○ 未達成/×		
	作成日:	2019.11.06		作成日:	2020.04.15		作成日:	2020.04.15	
項目	上 期			下 期			通 期		
	目標	実績	評価	目標	実績	評価	目標	実績	評価
1. 基本環境活動:									
(1) 温室効果ガス	2015年の -2.0%	-5.6%	○	2015年の -2.0%	-8.9%	○	2015年の -2.0%	-8.36%	○
(2) 水資源	2015年の -4.0%	-57.1%	○	2015年の 4.0%	-48.2%	○	2015年の -4.0%	-54.79%	○
(3) 廃棄物量(一般ごみ)	2017年の -1.0%	-7.8%	○	2017年の -1.0%	-13.2%	○	2017年の -1.0%	-10.49	○
(4) グリーン購入	90%以上	100%	○	90%以上	100%	○	90%以上	100%	○
(5) 地域との共生	1回/半期	4/11実施済	○	1回/半期	11/15実施済	○	1回/半期	2回実施済	○
2. エコ21活動運営状況:									
(1) 会議体	毎月開催	6回開催	○	毎月開催	6回開催	○	12回開催	12回開催	○
(2) EM、規格等	見直し	見直し	○	見直し	10月環境(マ)	○	見直し	環境(マ)済み	○
(3) 環境経営レポート	作成	作成済み	○	—	—	—	作成	作成済み	○
(4) 内部監査	9月実施	9月実施	○	3月実施	3月実施	○	2回/年	2回実施済み	○
(5) 審査(中間・更新)	—	—	—	10月更新審査 (2017年版)	10/14・15更新 審査・認証	○	更新審査 (2017年版)	認証継続	○
3. 前回の指示に対する 処置(実行された内容)	・前年度(品質)実績が、集計・分析 され、それに基づき新年度の計画 が、策定された ・年度初めの納入不良を抑えられなかった			・上期の改善活動を集約、 分析し、下期の計画の見直し (主に品質向上活動)が、された			・まだ(コロナからの)平時/平常化 されていないが、新年度の計画等 着実に計画化している		
4. 活動に対する評価・指示	・照明の更新時また、計画的に機材の LED化等を実施している ・非定常作業の削減の活動(アイテム) に停滞感があつた ・工程不良削減活動もやっているが 納入総量の減少もあり、純粋な 活動はやや遅れていると考える			・下期は、当初の予測よりまた後半 販売/生産が、減少した ・エコや品質の活動項目は、実行できた			・結果的には、達成された項目が 多かったが、積極的な活動アイテム の創出は、滞ったかもしれない コロナの影響(総量の減少による) を考慮しなければならないが、この影響 下でもさらに継続的にムリ・ムダの 抑制活動を行う		
5. 運営に対する評価・指示	・計画化された活動(会議運営 資料等は、作成されている) ・但し、引き続き効果を持つネタ 出しに苦慮している ・各部署は、ムラ・ムダの極みで ある不良の削減の效果的 活動案をさらに強化する			・会議体、モニター等は、着実に 実施された。 ・下期後半は、新型コロナの影響を 大きく受けた。人との接触を減らすため 会議体も減り、また休業も増え、運営 に影響があった。			・左記、同様、会議体や文書 (エビデンス)は、しっかりと 出来ていると思う。 ・このような影響下であるが、年度の 計画/活動を立案し、行動したい		
6. 総括と次期への指示	・工程不良、非定常作業等 品質に関わるムラ・ムダの 削減に一層努力する ・多数個不良の撲滅活動を行う			・まずは、緊急時のへの対応と平常化 された時に活動(計画)の挽回を図る ・後半、販売/生産量も落ち、全てに おいて総量が減少したが、単位当たり の実績のモニターが必要か?			・設備投資に当たっては、省エネタイプ を選定し、補助金等を活用する ・EA21-2017年版への移行後の 更新審査を完遂する		

※ 上記の評価を行うに当たり、①各部の活動方針展開表、②マネジメントレビュー、
③環境経営レポート、④ISO9001/エコアクション21推進会議議事録 等を参照する。